

講談名作選「太閤記の世界」

あやまちのこいびょうたん

めおとそでしぐれ

「過乃恋瓢箪の段」から「夫婦袖時雨の段」を口演します

【上方講談について】

今日「講談」と呼ばれる芸能は、江戸時代には「講釈」と称され、戦国の軍談や『太平記』などを読み聞かせる口承文化として発展しました。武勇や忠義を語り歴史を伝えるとともに、とりわけ上方では大坂・京都の町人文化と結びつき、商人の才覚や人情、教訓を織り込んだ独自の芸風を育み、地域の精神文化を支えてきました。明治維新後、「講釈師」は「講談師」と呼ばれるようになりますが、歴史を物語として語り、先人の生き方を伝える役割は変わりません。講談は書物では味わえない間合いや抑揚、人物の息遣いを一人の演者が立ち上げる芸であり、その技芸は師から弟子へと継承される無形の文化財と言えるでしょう。

【太閤記について】

今年大河ドラマ「豊臣兄弟」の主人公である豊臣秀吉・秀長像の源流は、「太閤記」にあります。「太閤記」は、江戸時代初期に成立した『川角太閤記』、『絵本太功記』、『甫庵太閤記』などを基に、江戸時代、講釈師によって紡がれて、明治時代以降、講談師の創意工夫、速記本や新聞連載などの流行によって「太閤記」をはじめ、様々な物語が日本中に広がりました。

講談師：旭堂南龍（きよくどう なんりゅう）

2018 年「真打」昇進及び「南龍」襲名 2019 年「令和元年度 咲くやこの花賞 大衆芸能部門」受賞

2021 年八尾市文化新人賞受賞 2021 年(第 76 回)文化庁芸術祭賞 大衆芸能部門新人賞受賞

日時：10月1日（木）2時～3時30分 定員：先着90名（事前申込は不要）

会場：芦屋市民センター本館301室 住所：芦屋市業平町8-24 受講料：無料

お問合せ先：芦屋市立公民館 電話：0797-35-0700 主催：芦屋市